

吉野復興大臣宮城県訪問ぶら下がり会見録
(平成29年4月27日(木) 16:55～17:05 於)宮城県庁)

1. 発言要旨

今日は、知事に対して、復興庁が、前大臣の発言を受けて、信頼を失ってしまった。その信頼回復のために、今日は、本当に忙しいお時間を割いていただいて、謝罪と、そして、これからの信頼回復のために御尽力いただきたいということで、やってまいりました。

知事の方からは、私は福島県の特に原発被災を受けた地域の者なので、宮城県、また岩手県はあまり行っておりません。そういう意味で、大臣に就任してから宮城県、また岩手県、ここ、現場をきちんと見て、課題がどこにあるか、復興がどこまで進んでいるか、そういうところをきちんと見てみたいということで、知事にお願いをしているところであります。

私の方からは以上です。

2. 質疑応答

(問) 今村前大臣の発言についてですけれども、宮城県内の被災者も、大変憤りですとか、悲しい思いを持っています。県内の被災者に向けて、改めてお言葉があればお願いします。

(答) 本当に傷つけてしまいました。私も津波被害を受けている被災者の一人でございますので、あの発言については、私自身も憤りを感じているところです。言語道断だと、本当に復興の司令塔としての復興大臣の発言としては、本当に間違っているという思いであります。

それで、あの発言を、ニュースとして入ってきたときに、自民党の加速化本部という本部がございます。額賀福志郎本部長でございますので、すぐ額賀先生に抗議をしてください、こうお電話をしたところです。

本当に、前大臣の発言で、傷つけてしまった、そして、復興庁の信頼を失ったことに対して、今日はそういう意味で謝罪に上がった次第です。そして、信頼を是非取り戻したいということで、知事に御協力を得たいということでまいりました。

(問) 信頼回復に向けて、まずはどういうところから取り組むのですか。

(答) 私の場合は、被災者に寄り添って、この復興事業を進めたい、最後の一人まで、支援を求める人がいれば、その最後の一人まで支援を継続する、こういう立場で、これから復興の事業を進めていきたい、このように考えておりますので、そういうところを被

災者の皆様方に見ていただいて、信頼を回復したい、このように考えています。

(問) 今日、就任２日目で、被災地、福島、宮城を回られて、大臣自身が被災地の御出身、選出ということもあって、期待も強いと思うんですけども、その辺りの思い、この今日の訪問でどうお感じになりましたでしょうか。

(答) 被災地の大臣ということで、かなり期待が多うございます。それにきちんと応えていく、復興大臣として応えていかねばなりませんので、ある意味のプレッシャーを感じているところです。それだけ、被災地出身の大臣ということで、私の責任、すごく大きな大きな責任を持っているなということを感じて、これから努力していきたいと思います。

(問) 就任すぐに被災地の方に訪問されてということなんですが、今週末、例えば、地元含めて被災地を回る予定はありますでしょうか。

(答) １日は盛岡、そして、２日は宮城県、ここを回る予定になっております。

(問) 具体的にはどの辺りを。

(答) それは、役所の方で作っていますので、ちょっと私の方では。

(問) 週末は地元には帰られますか。

(答) 週末は地元に戻ります。

(問) 被災地御出身の大臣として、震災から６年を迎えて、被災地の課題というのはどういうふうにお考えでしょうか。

(答) 一言で、宮城県みたく復興がずっと進んでいる地域と、私の福島県、特に福島五区はやっと解除されたばかりですので、これから始まります。ですから、地域によっていろいろ格差があるかと思います。でも、そのステージ、ステージにおいて小さいことだと思ふんですけども、課題はあるんです。復興の進んだ宮城県であっても、課題はありますので、その課題をきちんと把握をして、そこに対する支援、これをやっていきたいと思っています。

(問) 大臣は福島で国会議員になられたときは、避難区域にいろんな研究拠点だったりとか、いろんなものを誘致されたりとかされたと思うんですけども、宮城、岩手に何かそういった誘致だったりとか、そういった、こうしていきたいというのはありますでしょうか。

(答) それは地元からきちんと要望があれば、一生懸命汗をかきたいと思っています。

(問) 先ほどの会談の中の冒頭で、宮城県の場合、特にソフト面での取組が重要になってくるといった言及がありましたけれども、具体的にどういったことが課題で、どういった取組が必要だと感じ

ていますか。

(答) その辺の課題もこれから知事にお伺いをして、具体的にどういうところが必要なかというところをこれから把握して、そして、そこに対する支援もしていきたいと思っています。

(問) 先ほど福島の方で申し訳ないんですけども、冒頭のところで福島は原発と戦争しているという発言をされていたのですが、戦争という言葉を選ばれた真意について、もう一度お願いできますでしょうか。

(答) 正確に言うと、原発災害と闘っているということでございます。福島県の場合は有事、有事だということを強調する意味で、先ほど戦争という言葉を使わせていただきました。

(問) 先ほど大臣の方の発言で、支援を求める人がいれば、最後の一人まで支援を継続すると。これは自主避難者、原発事故の自主避難者に対しても同じかと思えますけれども、片や住宅制度についても、いろんな支援策についても打切りという終了の時期というのは必ずあるもので、全体として打ち切らなければならない、そういう時期が来ると。ただ、求めている人は少なからず残っている可能性はどのような政策でもあるわけですが、そこら辺の整合性について、どういうふうにして取り組んでいかれるのでしょうか。

(答) 最終的には自立できる国民をつくるというのが、これは最終目標です。それも、自立をするためには、支援をして、自立までいくという、こういう過程、いわゆるすばっと切るのではなくて、オーバーラップの時点です。ですから、自主避難者に対しては、全国で26か所の、いわゆるよろず相談所、住宅が切れてしまいましたので、どこか住宅の世話をしてほしい。また、介護を要するお年寄りがいる、どこか介護のところをお世話してほしいというよろず相談窓口を全国26か所でやっております。それでも足りなければ、もっときちんと数を増やすとか、そういう支援を、これから私の代になってからはやっていきたいと思っていますので、そういう意味で最後の一人になるまで、私は支援をしていきたい。これが被災地代表の、復興大臣の吉野の仕事かなと思っています。

(問) 今のあれなんですけれども、自主避難者の方で、住宅の無償提供をまだ続けてくれ、これを撤回するおつもりは、あるいは見直すおつもりというのはありますか。

(答) 打ち切りを前提として、もう新たな住居確保への支援、特に福島県の場合は、家賃補助もつくっておりますので、そういう意味で、できるだけの支援をしていくということです。

(問) 大臣は被災地出身だということを強調されてはいますけれども、

ちょっと厳しい言い方かもしれませんが、あまり宮城県のことは知らないのではないかなという印象を今、持ったんですけれども、その辺りはいかがですか。

(答) 全くおっしゃるとおりで、これから宮城県の課題をきちんと把握をして、岩手県の課題も把握をしてまいりたいと思います。おっしゃるとおりです。

(問) それでも被災地の代表という形で自分をアピールするということころはちょっとどうなのかなと思ったんですけれども、いかがですか。

(答) 私自身は津波被害者でありますので、私の経験をもとにお話しているつもりです。

(以 上)